

## 資料室だより 153

**Dies irae by Zsigmond Szathmary**

ジグモンド・サットマリー作曲のオルガンと打楽器のための Dies irae(怒りの日)というオルガンと打楽器のための作品を購入しました。打楽器とヴィブラフォンが入りますがオルガン独奏曲の分類で配架します。サットマリーは1939年、ハンガリー生まれのオルガニスト、作曲家。バッハから同国のリスト、コダーイらをレパートリーを中心としつつ、様々な現代オルガン作品を初演しています。日本人の細川俊夫、石井真木の作品も初演し来日したこともあります。ヴァルヒャにオルガンを師事し、作曲をリゲティに師事しています。

ここに購入したのは「怒りの日」というタイトルでおわかりのようにレクイエムのなかのセクエンツィアです。言葉はありません。器楽で表現するレクイエムです。彼はこれを第二次大戦終戦70周年記念のために作曲しました。彼にとっての幼年時代の戦争の記憶が作品に音響として反映されており、そのなかに中世(13世紀)のセクエンツィアの旋律が埋め込まれています。Dies iraeという聖歌は中世の、主にフランシスコ会を中心とした悔改めの運動を背景にしています。戦争と疫病と自然災害、飢餓にさらされていた人々の悔改めの運動です。戦争、疫病、自然災害にさらされているのは現代の私たちも同じです。ここに聴かれる Dies irae の旋律とテキストの背後にある心象は現代人も共有できるものであるはずで

**聖クララ会修道院からの寄贈聖歌集**

アッシジの聖フランシスコが創設した3つの会のうちの第二会一貧しき乙女たちの会は通称クララ会といいます。観想修道会で厳しい節制と祈りの生活をし、聖務日課を大切にします。日本にもクララ会はあり、そのご高齢の姉妹が帰天されたためにフランシスコ会固有の聖歌集(クララ会と同一)を遺品として寄贈してくださいました。修道会固有の聖歌本としてすでにドミニコ会、シトー会の聖歌本を所蔵しておりますが、ここにフランシスコ会も加わりました。

**+Missae propriae ordinis Fratrum Minorum**

小さき兄弟会(フランシスコ会)のミサ固有唱という意味です。一般的な祝日に関しては Graduale Romanum を参照するようになっておりフランシスコファミリー固有のミサ曲に特化しています。

**+Cantus varii**

イムヌス集です。一般的なイムヌスもありますがフランシスコ会が編纂した聖歌本ですのでフランシスコファミリー固有の賛歌が非常に充実しています。

**+Manuel des Benedictions et Processions du Tres Saint Sacrament**

通称ルネ・パリと言われフランス系の聖クララ修道院から日本にもたらされたものです。行列にも使うためか手のひらサイズになっております。五線譜に角型記譜法、そしてラテン語歌詞のフランス語訳がすべてについております。

ローマ典礼と平行して存在する修道会固有聖歌の収集もグレゴリオの資料室のひとつの使命と思っています。

(杉本ゆり 記)